

乙事の「区宝」図鑑に

富士見町乙事区が、区内の歴史資産を守り伝えるために作成を進めた「乙事図鑑」と史跡マップが完成した。文献収集や地域の郷土史家への聞き取り、現地調査を経て1年がかりでまとめ、山岳信仰や戦国時代の史跡群など37カ所を紹介する。区内全戸に配布するほか、史跡マップは公民館と「そば処おっこと亭」で希望者に配布する予定。乙事の「区宝」を広く発信し、史跡巡りなどで活用できるようにする。（鮎沢健吾）

富士見 史跡マップも完成、発信

プロジェクト推進委 1年かけ

御柱祭を契機に昨年度、地域の歴史・文化・自然資産を維持活用し、次世代に伝承する「乙事学プロジェクト」を立ち上げ、県の地域発元気づくり支援金を活用して一連の活動を進めた。乙事図鑑はA4判フルカラ

140ページ。マップはA3判折り畳み式で、持ち運びがしやすいようにした。

3体の地蔵尊が残る「夕日山地蔵寺跡」など戦国時代ゆかりの地、稗の底村に暮らしていた住民が村を去る際に移設した



乙事学プロジェクトで完成した乙事図鑑や史跡マップ、水利冊子、紙芝居を手にするメンバー117日夜、富士見町の乙事区公民館

「六地藏石幢」諏訪の地で唯一行われていた「乙事の馬市」、江戸時代に造られたオオカミの落とし穴「狼落とし」など、点在する文化財と位置を収録。図鑑では歴史やいわれを詳述し、郷土史家の見解も載せている。

乙事学プロジェクト推進委員会は13人で構成し、他に水利の歴史をまとめた冊子、昭和初期に子どもたちのために村を挙げて造った「中丸沢の学校道」を題材とする紙芝居を作成した。先月には一連の活動と成果を発表するフォーラムを催した。

図鑑の内容は、区のホームページでも閲覧できるようにする考えだ。推進委は、区内の郷土史家や先輩らの協力に感謝し、「集落のまとまりを強めた山岳信仰、戦国時代の要所。乙事には美しい自然や農村景観とともに、隠れた歴史資産が数多くある。地元で活用し、外に向けても発信していきたい」としている。